

Part 4

「やりたいことがない」
は本当？

親子で取り組む わくわく発見ワーク

子どもがもつ興味・関心や、探究の原動力となるものは何なのか。親子で一緒に考えてみてはいかがでしょう。子どものためのキャリア教育に取り組みキープソン21に取材し、対話のヒントや親子でできるワークを教えてくださいました。



認定NPO法人キープソン21
代表理事
朝山あつこさん

誰もが備える、わくわくして動き出さずにいられない原動力「わくわくエンジン®」を発見し、これをキーワードに活動を展開する。2005年、日経WOMAN主催「ウーマン・オブ・ザ・イヤー2005」クリエイティブ部門受賞。3人の息子の母親。著書に「ふつうの主婦が見つけたやる気のエンジンのかけ方」（高陵社書店）。

好きなものなら夢中になれる。しかし、その好きや何なら夢中になれるのか、がわからず悩む高校生は少なくありません。變動の激しい時代だからこそ、自分の軸を信じられる力が大切だと朝山あつこさんは語ります。

「大人は『これくらいのレベルの学校や企業に入れると安心だね』などと、社会のほうを見て話しがち。ですが、社会を軸に生きていくと、社会や周りに合わせて自分を変えなければなりません。それで自信を失い、苦しくなってしまう子どもも多いです。子ども自身もわくわくすることがわかれば、必ず自身で探究し始める。それが必ず自身の進路決定にもつながっていくはず」（朝山あつこさん、以下「内同」）

決めつけが「無気力」を生んでいる？

小学生のころは…



看護師さんに憧れる♡

サッカーが好き。
サッカー選手になりたい！

中学生くらいになると…



ネットを見ると「医療系の職場はブラック」って書いてある…。

「世の中そんなに甘くない」って親に言われた…。

そして今…



どうせ私なんか…。安定した仕事に就かなきゃ…。

やりたいことなんてできっこない…。

小さいときには、自分の「好き、や」りたい。を話せる子どもたち。しかし、花形の職業しか見えないために挫折したり、SNSなどでマイナスの情報ばかり見聞きしたりしているうちに、自分のエネルギーのぶつけ先を失って、自分自身を肯定的に

捉えられなくなる子ども。朝山さんいわく「もともと主体性がない子どもは一人もいない。大人たちから『社会は厳しいから～したほうがいい』と決めつけられ続けると、自分の「～したい」がわからなくなるだけです」

対話の前に

子どもの言葉を否定しない

親子で話をする時、つい、もう少し現実を見ないと…などと諭したくなりそうですが、大事なのは「したほうがいい」という言葉や、相手を否定する言葉を言わないと心に決めることだそう。「ほかの人になら言わないけれど、自分の子どもだからこそ『それよりもっと大事なことがあるでしょ？ 宿題やった？』などと言いたくなることもあるはず。思わず口に出すと、子どもは「自分のことを聞いてくれない、わかってくれない」と感じるの、うっかり親子でバトルが始まってしまいます。これからは生きる子どもも、親が答えを知っていると思わず、親としての願望も少し傍に置いて、まず、子どもの言った言葉を受けとめる。まっさらな気持ちで子どもと向き合うことを心がけてみてください」

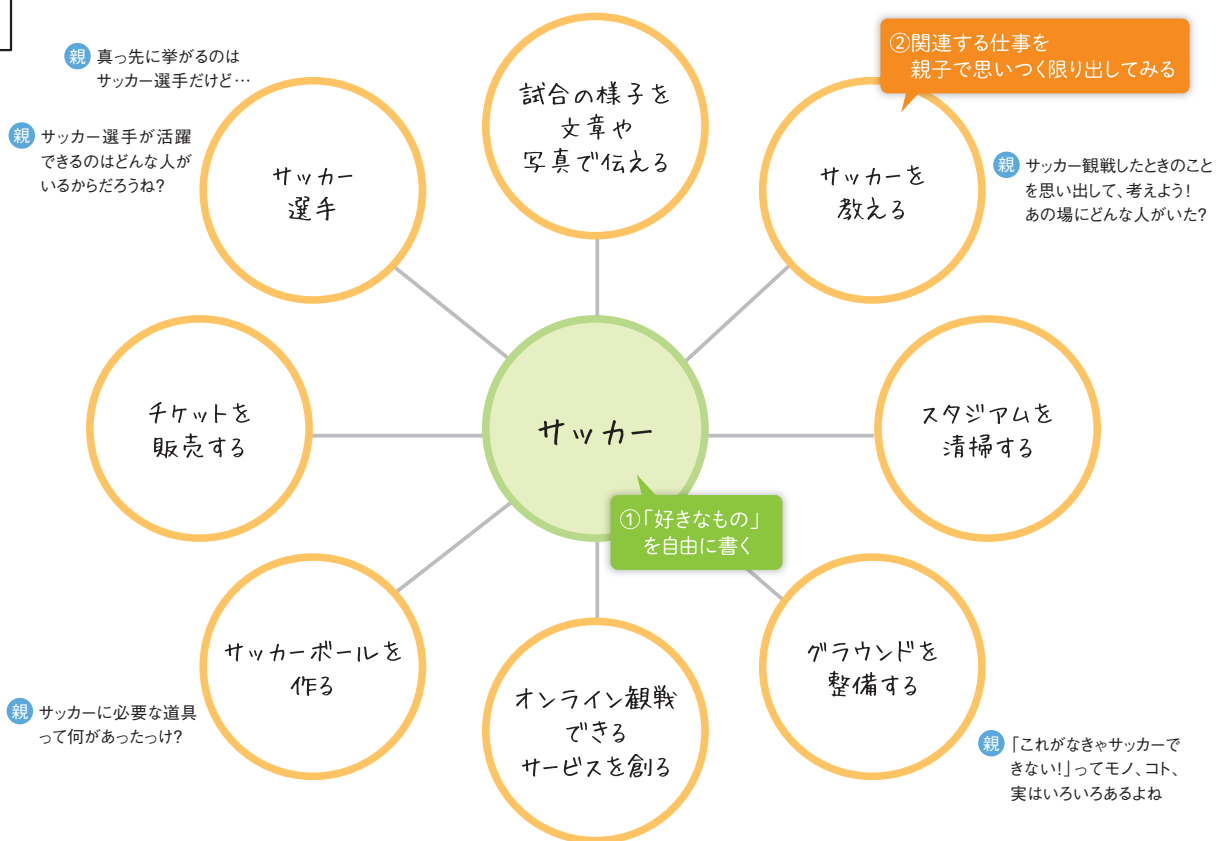
【対話のポイント】

- フラットに
- 先入観なく
- 思い込まず
- 決めつけず
- 願望をもたず
- 誘導せず
- 無になつて
- その子のど真ん中をみる



「好きなもの」の周りにどんな仕事がある？

例



親子で一緒に考えて、紙に書いてみるのがオススメです。

▲親の問いかけや、発想の広げ方を参考に、お子さんにいろいろ問いかけてみてください。

※本ワークは、キーパーソン21の「わくわくエンジン」の考え方や取組を取材した内容です。

好きなものはアイドル。関連する仕事はアイドルしか思いつかない。そこで話が止まってしまったり子どももいるでしょう。「ああなたはアイドルになりたいの？」と受けとめつつも、好きを直線的に職業に結びつけるのではなく、そのアイドルから広げて仕事を考えてみると、自分が主体的に関われそうな場所や役割が見つかるかも。まずは決めつけず、視野を広げてみることで

例えばこんな対話も◎

子 「好きなものはBTS。仕事はアイドルしか思いつかない」

親 「BTSが好きなんだね！じゃあ、そのBTSの周りに、どんなことをしている人がいる？」

子 「そうだな～。まずは衣装を作る人。PVを作る人。ほかにも…」

親 「BTSが好きなんだね！どんなところにわくわくするの？」

子 「ダンスがかっこいい！」

親 「じゃあダンスに関連する仕事ってある？」

子 「ダンサーでしょ、あと…」

POINT

「好きなものはBTS、以上！」で話が止まってしまったら

好きなものの周りにある仕事を連想していくのは、子どもの視野を広げる狙いがあるそうです。「サッカーならサッカー選手、と真っ先に目に入るのは花々しい仕事でしょう。でも実際は、その裏にグラウンドを整備する人やスカウトする人、道具を作る人から、その道具の材料を作る人まで、さまざまな人の仕事やはたらきがあつてサッカー選手の活躍がある。それがわかると社会の見方が変わ

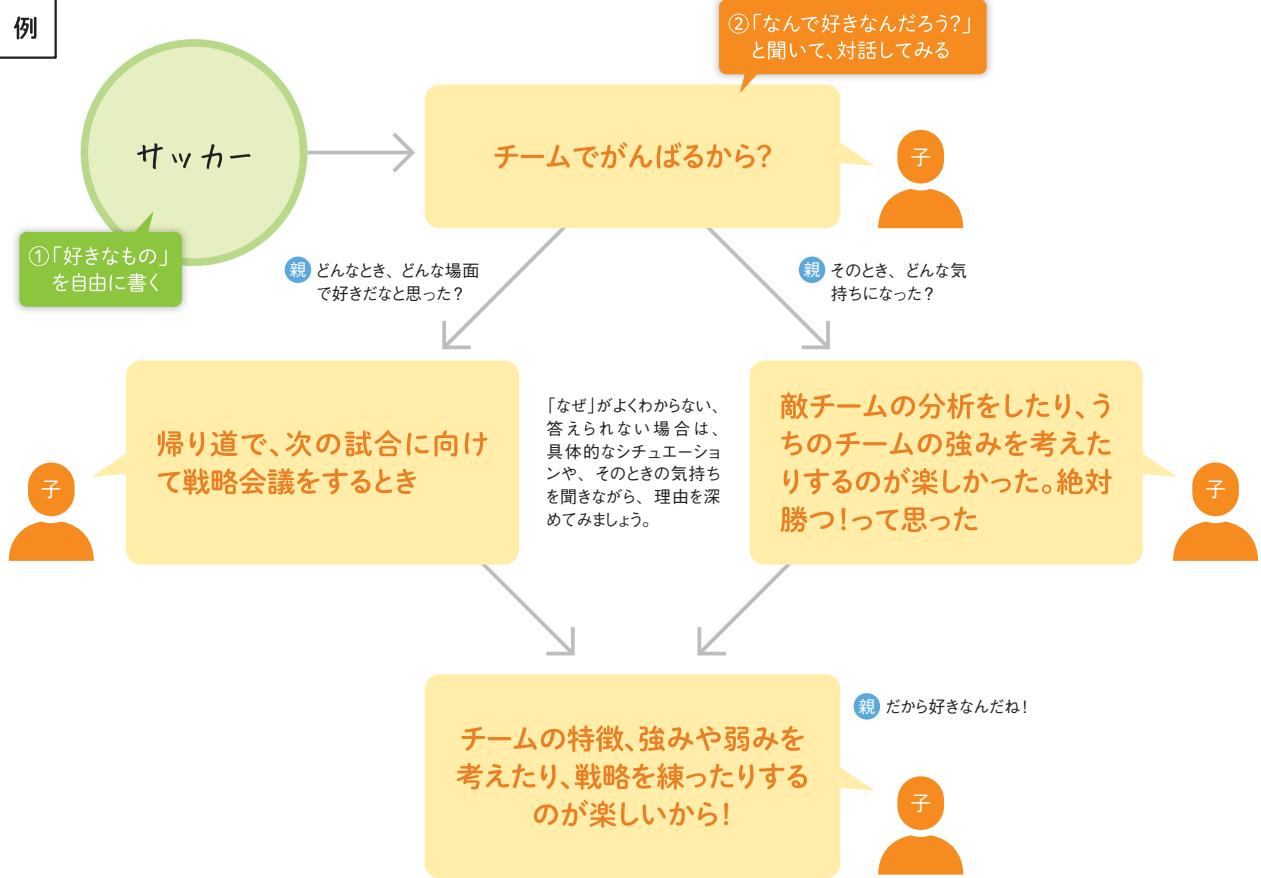
るはず」
本当は、好きなものに関わる方法や手段は世の中にたくさんある。サッカー選手の活躍を、陰で支えている仕事が見えてくると、サッカー選手に限らず、自分らしい関わり方を模索することもできるでしょう。さまざまな仕事は、自分の好きなものにつなげていく実感を得られると、自分が好きだと思う気持ちを手放さずいられます。

POINT

「『好きなもの』に関連する仕事はたくさんある」
そう思えると、社会の見方が変わる

なんでそれが好きなんだろう？

例



▲親の問いかけや、発想の広げ方を参考に、お子さんにいろいろ問いかけてみてください。

※本ワークは、キーパーソン21の「わくわくエンジン」の考え方や取組を取材した内容です。

「その子どものことを一番知っているのは、本来は親のはず。ですが、こうしたワークをやってみると『実は私は、子どものことを全然知らなかった。話を聞くことがしていいな』と気づく親御さんも多いんです」

確かに、学校のことや部活のことなど、子どもと日頃からよく話す保護者の方でも、子どもが部活の何にそんなに夢中になっているのかはわからない、という方は多いの

ではないでしょうか。同じサッカーが好きでも、戦略を立てることや新しい技を習得すること、みんなで一つの目標をクリアすることなど、好きの理由はさまざま。親が聞いてみると、子どもは照れながらも内心、自分のことを知ろうとしている親を嬉しく思うかもしれません。親が少しでも、子どもの好きの理由に興味をもつだけで、家族の時間も豊かになりそうです。

POINT

「子どもが本当は何に関心をもっているのか」
親が興味をもつと、対話が豊かな時間に

なかなか理由を言語化できない子どももいるでしょう。つい親のほうがかこういうことじゃないかと誘導しそうになったり、ここからどう考えを深めたらいいのかと悩んだりしそうですが…。

「本当は、ただ相手の話を受けてめて、知りたいという姿勢で聞けば『そうなんだ。それってどんなとき？』『へえ、すごいね。なんでそう思ったの？』など、自然に質問が出てくるはず。だけどこれが

意外と難しく、相手を否定したり、問い詰めるようになってしまったり、実は親自身も、親や先生から自分がどう思うか、なぜそう思うかを聞かれたことが少ないからかもしれません。まずは否定せず一旦子どもの話を受けとめる。それから質問する、という順番を意識してみるだけで、子どもの話を聞く姿勢が少し変わるかもしれません。

POINT

「ただ受けとめて、理由を問う」が難しい。
親のあなたも聞かれたことがないから



対話の
ヒント

思いを引き出す「わくわく」3つの観点

子どもの口からはいろいろな種類の「～が好き」や「わくわくする」といった言葉が飛び出すでしょう。子どもの「わくわく」を知るための3つの観点を教えてもらいました。

名詞的わくわく

自然
友達
仲間
生き物

形容詞・副詞的 わくわく

じつくりと
正しく
スムーズに
一人で

動詞的わくわく

知ってもらう
伝える
冒険する
改善する

わくわくするもの

サッカー

名詞的
わくわく

親 なんてわくわくするんだろう？



試合の作戦や勝つための戦略
を立てるのが楽しいから

わくわくするもの

作戦や戦略を立てる

動詞的
わくわく

3つの種類の「わくわく」に注目して、子どもの話を聞いてみるというそうです。1つ目は「サッカーが好き」のような「名詞的わくわく」。これは子どもの興味・関心の対象を示しています。2つ目は「形容詞・副詞的わくわく」。じつくりと、スムーズに、といった取り組む状態を示しています。3つ目は「～する」といった行動やアクションになることを示す「動詞的わくわく」です。

「なぜそれが好き？」といった問いかけを通じて、その子の「動詞的わくわく」が導き出せると、これまでの興味の対象を超えて、新しい行動にも結びつきやすいでしょう。

プロのファシリテーターが 支援するプログラムも

今回の記事では、親子だけでできる簡単なワークを紹介しました。キーパーソン21では、対話のエキスパートが進行役をつとめ、1枠1家族で、子どもは自分の「わくわくすること」を見つけ、親は子どもの何を応援すればよいのかわかる親子向け対話型ワークショッププログラム『オンラインですきなもののビンゴ』や、高校生向けの個別進路サポートプログラム『solo-solo』を提供しているそうです。ご興味のある方は、誌面上だけではご紹介できなかった、子どもの「わくわく」を引き出すノウハウをぜひ体感し、親子で対話するきっかけにしてみてください。



「これが面白いの？」と聞くようになって、子どもは驚き、それからは子どもが夢中になっていることに対して『ど

ろが面白いの？』と聞くようになって、子どもは驚き、それからは子どもが夢中になっていることに対して『ど

ろが面白いの？』と聞くようになって、子どもは驚き、それからは子どもが夢中になっていることに対して『ど

ろが面白いの？』と聞くようになって、子どもは驚き、それからは子どもが夢中になっていることに対して『ど

ろが面白いの？』と聞くようになって、子どもは驚き、それからは子どもが夢中になっていることに対して『ど

ろが面白いの？』と聞くようになって、子どもは驚き、それからは子どもが夢中になっていることに対して『ど

POINT

子どもの内発的動機がわかると
親は応援できるようになる

親が子どもの「好き」や、その裏にある動機を知ろうとすることで、親子関係はどのように変わっていくのでしょうか。

「子どもとの関わり方が変わった」と語る方がたくさんいます。例えば、あるお子さんは、リフォームをテーマにしたバラエティ番組を毎週熱心に見ていたため、親御さんは『テレビばかり見ていて大丈夫かしら』と思っていたそうです。ですが、キーパーソン21のプログラムを体験して、その子が『変化を起す、ということに自分はいわくわくする』と言語化した。親御さんは驚き、それからは子どもが夢中になっていることに対して『ど

ろが面白いの？』と聞くようになって、子どもは驚き、それからは子どもが夢中になっていることに対して『ど

ろが面白いの？』と聞くようになって、子どもは驚き、それからは子どもが夢中になっていることに対して『ど

ろが面白いの？』と聞くようになって、子どもは驚き、それからは子どもが夢中になっていることに対して『ど